滋慶学園グループがバークリー音楽大学のパートナー校に

渡辺貞夫さんらを輩出したジャズの名門

米国のバークリー音楽大学とパートナーシップ契約を結んだ滋慶学園グループが、バークリーに編入する学生のために同大学と協力して奨学金制度を創設。奨学生の第1号にベースを演奏する齋藤大陽（たいよう）さん（18）が選ばれた。齋藤さんは3月に甲陽音楽学院高校科を卒業し、両親はともにギタリスト。ジャズの名門として知られるバークリーは、サックス奏者の渡辺貞夫さんらを輩出している。同グループは音楽系をはじめ、さまざまな分野の専門学校を運営しており、バークリーの日本における唯一のパートナー校になった。

奨学金制度を創設

「バークリーでは五感を存分に発揮して創造活動を行い、世界最高峰の空気を自分のものにできたらいいなと思っております」

このほど大阪市内で開かれたバークリー音楽大学と滋慶学園グループによるパートナーシップ契約の調印式で、同グループの浮舟邦彦総長から奨学金の目録と盾を手渡された齋藤さんは、力強く抱負を語った。

長野県生まれの齋藤さんは、ギタリストの両親のもと、4歳からギターやピアノを習い、13歳からベースを始めた。父親もバークリーを卒業しており、後輩になると喜ばれたという。

調印式に出席したロジャー・ブラウン学長は、渡辺貞夫さんのほか、ピアニストの秋吉敏子さんや小曽根真さんら、バークリーで学んだ日本人音楽家の名前を挙げながら、日本をはじめ、世界中から学生を積極的に受け入れてきたことを説明。齋藤さんに対して「世界最高のベースの教育を受けられる。ボストンの現地で出会う学生たちと切磋琢磨していただければ」と激励した。

バークリーは1つの国で1～2校に絞って、パートナーシップ契約を結んでおり、滋慶学園グループは日本における唯一のパートナー校になった。パートナー校はバークリーのロゴを使うことができ、バークリーへの編入学コースを開設することができる。両校は、バークリーの学費2年分に相当する奨学金制度を創設したほか、今後も、さまざまな提携を進めていく方針という。

浮舟総長は、同グループの音楽教育は演奏家の養成だけではなく、エンジニアなど、音楽業界で必要とされる人材も養成していることを説明。バークリーとの提携により、「互いの強みを生かして、革新的な音楽教育が可能になるだろう」と話している。

調印式に出席した齋藤さんは力強く抱負を語った（左から浮舟総長、齋藤さん、ロジャー・ブラウン学長）

パートナーシップ契約の調印式

◆バークリー音楽大学　米国マサチューセッツ州を本拠地とし、ジャズを中心とする総合音楽大学。1945年創設。クラシックのジュリアード音楽院と並び称される名門校。12学部があり、100カ国以上の学生約4500人が学んでいる。

◆滋慶学園グループ　昭和51（1976）年に大阪で歯科技工士養成校としてスタート。滋慶医療科学大学院大学（大阪市淀川区）をはじめ、大阪スクールオブミュージック専門学校（同西区）など、専門学校を中心に全国で70校を運営している。

子供たちに自ら考えて行動する習慣を

日本ラグビーフットボール協会リソースコーチ
U17日本代表コーチ

二ノ丸 友幸さん

ラグビーを通じて、自ら考え、行動することを子供たちに伝えたいという指導者がいる。元クボタスピアーズの二ノ丸友幸さんだ。日本ラグビーフットボール前のミーティングを重視する。試合中に声を掛け合える短い時間を想定して、30秒、1分などと区切りながら、自分たちで考えさせたり、意識させたりすることを徹底。自身が事前に理解していないことを練習しても、成果が出なかったという経験に基づくもので、何のために必要かを明確にしてから練習に臨む。分からないことをそのままにせず、やるべきことを理解させるという方針だ。

このほど堺市堺区のグラウンドで和歌山県立和歌山工業高校のラグビー部員約60人を指導した際にも、全員で目標を共有しているチームは強いと説明しながら、「ラグビーは常に考えながら行動する。自ら考えて行動する、判断する習慣を付けてください」と意識改革を促した。また、感覚にこだ